

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調査書

(1) 取組名	隠岐の里山・里海再生を核とした環境産業及び定住・交流促進プロジェクト		
(2) 実施団体	緑のコンビナート実行委員会	(3) 対象地域	島根県隠岐の島町
(4) 代表団体	隠岐島後森林組合	(5) 推薦団体	
(6) 実施した取組の内容	<p>取組① 里山再生のための林業体制整備と林業促進のための木質バイオマスの利活用</p> <p>実施主体 主担当: 隠岐島後森林組合(副担当: 島根県隠岐支庁、隠岐の島町、地域戦略研究所)</p> <p>当初提案により予定していた計画</p> <p>実際の取組内容及びその結果</p> <p>実施内容、実施結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 木材生産団地等研修会(平成20年11月初旬(1回)/町内) ・取組目的: 林業の効率化を目指した林業者の人材育成 ・実施内容: 施業先進地調査(平成20年11月下旬(1回)) ・取組目的: 木材生産団地化を目指した林業者の人材育成 ・実施内容: 森林所有者の意向調査(平成20年12月～/対象:森林所有者) ・取組目的: 木材生産団地化に対する意向把握による木材生産団地化に向けた基礎資料の充実 ・実施内容: 木質バイオマス事業実施に必要な町内体制整備検討会(平成21年1月～(2回)/町内) ・取組目的: 木質バイオマス事業での切捨間伐材や小径木等の未利用材の利用の促進 ・実施内容: 木質バイオマス利活用社会実験(平成20年12月～/町内) ・取組目的: 未利用材をストーブ等に利活用する社会実験の実施による木質バイオマスに対する町民意識啓発 <p>取組② 里海的漁場の管理と海洋バイオマスの利用促進</p> <p>実施主体 主担当: 嵯海中景観研究所(副担当: JFLまね西郷支所)</p> <p>当初提案により予定していた計画</p> <p>実際の取組内容及びその結果</p> <p>実施内容、実施結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 沿岸漁場の環境情報図作成(平成20年10月～/町全域) ・取組目的: 藻場の保全と割出、漂着海藻のエネルギー利用等に資することを目的とした、藻場の分布、未利用資源の分布等の現況調査 ・実施内容: 海洋バイオマス利活用研修会(平成21年1月下旬/町内) ・取組目的: 有識者を招聘し海藻類のメタン化について研修 ・実施内容: 沿岸漁場の環境情報図作成(平成20年9月～平成21年3月/沿岸ほぼ全域) ・取組結果: 藻場の状況調査を行い、その分布、種類及び生育状況、海藻の漂着箇所、磯焼けの進行状況、地すべり等による土砂流入箇所について概況を把握し、これらの情報をマップとして整理する。(2月中にとりまとめる予定) ・実施内容: 海洋バイオマス利活用研修会(平成20年12月22日/ふれあいセンター) ・取組結果: 海藻を用いた研修であったが、調味液や焼酎の製造に関心が集まった。 <p>取組③ 里山・里海資源による体験交流促進</p> <p>実施主体 主担当: 隠岐の島町(副担当: 隠岐島後森林組合、隠岐自然倶楽部、隠岐NPOセンター準備会、地域戦略研究所)</p> <p>当初提案により予定していた計画</p> <p>実際の取組内容及びその結果</p> <p>実施内容、実施結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 島と企業の縁結び(1社1村運動)(平成20年11月～/島外) ・取組目的: 島外企業へのPRIによる里山・里海再生への企業の協力促進 ・実施内容: 島と企業の縁結びツアー(平成20年11月初旬(1回)/町内) ・取組目的: 「島と企業の縁結び」の対象企業のツアーを実施し、里山・里海再生への関心度を高め、参画促進 ・実施内容: 隠岐固有樹種の現況調査(平成20年10月～/町内) ・取組目的: 隠岐固有樹種の分布調査による基礎情報の把握 ・実施内容: 隠岐固有樹種の苗床・苗木づくり(平成20年10月～/町内) ・取組目的: 隠岐固有樹種の保全 ・実施内容: 焼山によるマツ枯れ跡地の天然更新(平成20年10月～/町内) ・取組目的: 隠岐古来の里山管理技術の検証・試行 ・実施内容: カーボンオフセットツアーによる里山楽校(里山体験交流)(平成20年10月下旬/町内) ・取組目的: 大学の講座等と連携して実施し、里山を介した地域と大学の連携を促進 ・実施内容: 有償ガイドの育成研修会とガイドマニュアルの作成(平成20年10月～/町内) ・取組目的: エコツアー等の体験交流の地元受入体制の整備 ・実施内容: 里山・里海活性化シンポジウム(平成21年3月上旬/町内) ・取組目的: 里山・里海再生の啓発 ・実施内容: 島と企業の縁結び(1社1村運動)(平成20年10月6日、7日＝東京都内企業4社、平成20年10月16日＝和歌山県内企業1社、平成20年11月25日、26日＝宮崎県内企業2社、平成20年12月5日＝広島県内企業1社) ・取組結果: 里山・里海再生への取組、木質・海洋バイオマス事業への参画の可能性の高い企業8社を対象に1社1村運動のPRを実施し、木質バイオマス事業(リグニン)や島内木質バイオマス発電事業について調整し、協力企業を得た。 ・実施内容: 島と企業の縁結びツアー(平成20年10月29日、平成20年12月7日/町内) ・取組結果: 2社の参加を得て、島内の里山・里海資源、廃校、空家の紹介を実施した。意識調査の結果、今後の1社1村運動の推進と、島外企業との連携による未利用資源、遊休施設の利活用の可能性を確認できた。 ・実施内容: 隠岐固有樹種の現況調査(平成21年1月～2月/隠岐の島町内) ・取組結果: 調査結果は2月中にとりまとめる予定である。 ・実施内容: 隠岐固有樹種の苗床・苗木づくり(平成20年10月～平成21年3月/森林組合) ・取組結果: 隠岐固有樹種の採種及び苗箱への播種を実施し、発芽中。生育の早いケグフは3月に苗床に移植予定。 ・実施内容: 焼山によるマツ枯れ跡地の天然更新(平成20年10月～平成21年2月/都万地区) ・取組結果: 10月から不要木の伐採、下刈を実施し、6区画の実験区を準備。2月に抵抗性クロマツの播種、4月に発芽予定。 ・実施内容: カーボンオフセットツアーによる里山楽校(里山体験交流)(平成20年10月4日:伊後地区、平成20年11月29日:津戸地区) ・取組結果: 島根大学2回生24名と教員4名を対象に、地元ガイドによるエコツアーと専門家による森林間伐体験を実施し、満足度調査の結果、参加者の96%の満足獲得となった。また、島根大学生有志3名を対象に植林活動を実施し、本土から来島時のCO2排出量(運輸部門)と植林のCO2固定量をオフセットした。今後の里山体験交流によるカーボンオフセットツアーの可能性を確認できた。 ・実施内容: 観光ガイド養成講座(平成20年10月25日、11月23日、12月7日、平成21年1月18日、2月8日(ふれあいセンター、現地)) ・取組結果: 隠岐の自然環境および歴史についての講義や実地研修を行った。本事業による養成講座の開催によって新たに4名の方が有償ガイドへ意欲を見せており、これまでのガイドを含め14名のガイドによるガイド協会設立についても検討が行われている。また、今回の講座で使用した資料等をまとめたガイドマニュアルを作成し、ガイドの資質向上を図った。 ・実施内容: 隠岐の島 里山・里海活性化シンポジウム(平成21年1月31日/隠岐島文化会館) ・取組結果: 1月31日に開催する予定である。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容:地域資源活用シンポジウム(平成21年2月下旬/町内) ・取組目的:自然との共生まちづくりを隠岐から全国に発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容:地域資源活用シンポジウム(平成20年11月22日/ふれあいセンター) ・取組結果:世界ジオパークへの登録を目指した地域資源活用シンポジウムには島根大学の関係者をはじめ約120名の参加者があり、産官学による活動推進に向けた意見が交わされた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容:廃校サミット(平成21年2月上旬/町内) ・取組目的:廃校を利用した「ものづくり学校」の整備と、地域の匠・人材育成を目指す町民啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容:遊休施設活用シンポジウム(平成21年2月21日/隠岐島文化会館) ・取組結果:2月21日に開催する予定である。
	取組④	“こだわり特産品”の販売促進
	実施主体	主担当:隠岐島後森林組合(副担当:JFしまね西郷支所、隠岐NPOセンター準備会、(株)海中景観研究所、地域戦略研究所) 当初提案により予定していた計画
	実施内容、実施結果	実際の取組内容及びその結果 <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容:“漁師マップ”の作成(平成20年10月～/町内) ・取組目的:生産者と消費者の交流による特産品の販売促進のための、水産特産品の生産現場と生産者の情報発信 ・実施内容:特産品のモニタリング(平成20年12月～/町内) ・取組目的:特産品の販売促進 ・実施内容:“こだわり特産品”WEBサイトの構築(平成20年10月～) ・取組目的:特産品の販売促進
		平成20年度の取組実施における体制・役割分担 取組の実施を踏まえた反省点
(7)実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・緑のコンビナート実行委員会:下記8団体が構成され、それぞれの役割を分担。 ・隠岐島後森林組合(担当:取組①、③、④):委員会代表団体。森林所有者意向把握、育苗樹種の拡大。 ・隠岐の島町(担当:取組①、③):森林資源調査、島外企業と地域産業の調整。 ・島根県隠岐支庁(担当:取組①):木材生産団地等の先進地調査、林業関係者の人材育成。 ・JFしまね西郷支所(担当:取組②、④):海藻の特産品化。 ・隠岐自然倶楽部(担当:取組③):森林現況調査、エコツアー。 ・隠岐NPOセンター準備会(担当:取組③、④):里山特産品の開発、体験交流ツアー。 ・(株)海中景観研究所(担当:取組②、④):漁場の現況把握、海洋バイオマス利活用研修。 ・地域戦略研究所(担当:①、③、④):木質バイオマス事業、特産品販売促進支援、体験交流ツアー支援。 	<ul style="list-style-type: none"> 取組①里山再生のための林業体制整備と林業促進のための木質バイオマスの利活用 ・森林組合と隠岐支庁、隠岐の島町、地域戦略研究所の連携で実施予定であったが、木質バイオマス利活用については当初計画になかった木材製材業協同組合の協力、社会実験について同様にバイオマス研究会の支援により実施。 取組②里海の漁場の管理と海洋バイオマスの利活用促進 ・JFしまね西郷支所と(株)海中景観研究所、隠岐の島町の協働により実施。 取組③里山・里海資源による体験交流 ・委員会の構成団体の連携で実施予定であったが、当初計画になかった団体等による参加・協力も得て実施。具体的には、ツアーでは地元ガイドによるエコツアー等、森林植栽では漁師の参加、有償ガイド育成では島後ときの会の協力、シンポジウムでは島根大学生物資源科学部や中国地質調査業協会、島外企業の協力。
(8)取組により得られた成果	○成果1→	森林所有者意向の把握数、木質バイオマス利活用意向者数 H19 H20(当初予定していた目標)
		<ul style="list-style-type: none"> ・森林所有者の意向把握は実績なし ・「家庭用として利用したい新エネルギー」で「木質バイオマスエネルギー」の回答は7.2%
		<ul style="list-style-type: none"> ・郵送調査法による意識調査の実施による森林所有者の意向把握(回収率目標30%) ・社会実験の実施による木質バイオマス利活用意向者数の増加(倍増(15%)目標)
		H20(実際に得られた成果)
		<ul style="list-style-type: none"> ・森林所有者意向調査については、1,500名の森林所有者のうち1,000名を調査対象とし、うち500名の在村者を調査、400名の回答(回収率80%)を獲得。 ・木質バイオマス利活用意向については、3地区で調査中。結果がとりまとめられている五箇地区では、条件付で「設置を検討したい」が85パーセントで、今後の普及の可能性を確認。
	○成果2→	沿岸域の環境情報図
		H19 H20(当初予定していた目標)
		<ul style="list-style-type: none"> ・未整備 ・隠岐の島町全域整備
		H20(実際に得られた成果)
		・隠岐の島町のほぼ全域において沿岸漁場の状況調査を行い、情報をマップとして整理。(作成中)
	○成果3→	体験交流ツアー等の参加者の満足度
		H19 H20(当初予定していた目標)
		<ul style="list-style-type: none"> ・体験交流ツアー等の参加者の満足度の把握実績はなし ・体験交流ツアー等の参加者の満足獲得(獲得目標=参加者の50%)
		H20(実際に得られた成果)
		<ul style="list-style-type: none"> ・里山乗校参加者24名に満足度調査を実施。来島に対する日常の関心度は75%、満足度は96%で評価は良好。 ・エコツアーの内容については、日常の関心度は67%、満足度は79%。自然・歴史習得の関心度は67%、ガイドの満足度は92%。森林間伐体験については、日常の関心度は75%、満足度は92%、森林整備方法の学習の関心度は71%、講師の満足度は83%で、実施内容の評価は良好。特に、森林間伐体験は想像を上回る満足獲得で、今後の観光交流資源として産業の現場体験が十分期待可能。
	○成果4→	“こだわり特産品”の販売促進満足度
		H19 H20(当初予定していた目標)
		<ul style="list-style-type: none"> ・“こだわり特産品”に対する利用者の満足度の把握実績はなし ・“こだわり特産品”の利用者の満足獲得(獲得目標=利用者の50%)
		H20(実際に得られた成果)
		<ul style="list-style-type: none"> ・“こだわり特産品”のうち、椿油について、利用者35名に満足度調査を実施。 ・商品の見た目については、「良い」が91%で好評。香りについては「良い」が40%、「わからない」が60%で、微臭が結果に影響。肌触りは「良い」が83%。商品の評価は良好で、今後の販売拡大に十分期待。
(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点	取組①里山再生のための林業体制整備と林業促進のための木質バイオマスの利活用	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に参加した林業関係者が施業の低コスト化に意欲を示したが、単年度では効果出現困難で、継続研鑽のためには施業研修の継続、高性能林業機械の導入が必要である。 ・意識調査については、一部森林所有者の意向を得たが、木材生産団地化に向けた森林所有者の合意形成を図るためには、さらに追加調査を実施して意向集約を図る必要がある。 ・木質バイオマス事業実施に必要な町内体制整備検討会については、木質チップ事業システムが構築されたことから、今後は本格事業化に向けた供給ルートの確立のため、木質チップ供給実証実験を実施する必要がある。木質バイオマス(リグニン)の事業化については、引き続き製造システムの構築を図る必要がある。
	取組②里海の漁場の管理と海洋バイオマスの利活用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の漁業の将来を考えていく上で、漁場を中心とした沿岸漁場の現況を把握することが重要と考え、情報図を作成したので、それをもとに漁業者が効率よい漁場管理をする必要がある。

	<p>取組③里山・里海資源による体験交流促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島と企業の縁結び(1社1村運動)は関心度とツアーの満足度ともに一定の評価を得ており、里山・里海資源(バイオマス等環境事業や来島で得られる特産品等)を介した人的資源の交流による島と企業の信頼関係の構築の重要性を実感した。今後は1社1村運動の協力企業の囲い込み、福利厚生の場とした利用を推進するため、引き続き企業PRとツアーを継続する必要がある。 ・カーボンオフセットツアーについては、島根大学の講座等との連携によりツアーの満足獲得と、カーボンオフセットの可能性を確認した。また、漁師参加による植林活動により、川上から川下までの環境に対する町民意識啓発が同時に実現した。今後は島内外の対象者の拡大のために、漁業者や林業者、会社員といった職種に係わりなく広く町民の参加を得ながら、島外参加者の満足獲得効果が高い林業現場体験を含むツアーを継続する必要がある。 ・ガイド養成講座によって4名の方が有償ガイドとして意欲を示したことは大きな成果である。しかし、有償ガイドとしてガイド料を得るためには、今後も継続したガイド養成講座の開催が求められる。 ・里山・里海活性化シンポジウムについては、取組①や②に対し町民理解を得たが、今後の取組の進捗に合わせた啓発や情報発信を図るため、引き続き継続する必要がある。 ・地域資源活用シンポジウムを通じてジオパーク登録に向けた機運が高まり、隠岐ジオパーク推進協議会(案)の設立に向けた検討が行われるようになったことは最大の成果であると思われる。今後はジオパーク登録に向けた活動をより一層推進し、世界ジオパーク登録地となることが求められる。 ・遊休施設活用シンポジウムについては、ものづくり学校の整備に向けた取り組みを展開するため、遊休施設利用を推進する必要がある。 	<p>取組④”こだわり特産品”の販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・”漁師マップ”については、一部地区の作成が実現したが、生産者と消費者が交流する消費者現地ツアーの実施のためには、引き続き島内の水産特産品の生産現場と生産者の実態をさらに把握する必要がある。 ・”こだわり特産品”については、里山の特産品の椿油は商品化への課題は残るものの一定の評価を得たため、今後は里海資源や人的資源の利活用により、水産特産品目を拡充する必要がある。 ・”こだわり特産品”WEBサイトについては、立ち上げ直後の段階であることから、検索順位の向上やアクセス数の増加、及び販売サイトへの移行が必要である。
<p>(10)平成21年度以降の活動の見込み</p>	<p>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</p> <p>取組①里山再生のための林業体制整備と林業促進のための木質バイオマスの利活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施業プラン(モデル)の作成、高性能林業機械による施業実証、木質チップ工場設置による木質チップ化実証、木質チップボイラーによる木質バイオマス利活用実証、リグニン製品普及社会実験(H21年度) ・木材生産団地での高性能林業機械による施業実証、木質チップ(パルプ、燃料)販売実証、リグニン製品普及実証(H22～24年度) 	<p>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</p> <p>取組①-1. 低コスト化林業研修(H21年度)(隠岐支庁、隠岐島後森林組合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H20年度の施業研修の次段階として、H21年度は販売ルートの確立や木質バイオマス等による新分野開拓に関する研修を実施し、施業から流通までのシステム構築を図る。 <p>取組①-2. 今後の森林管理・林業経営の方向に関する意識調査(H21～22年度)(隠岐島後森林組合、地域戦略研究所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2次、第3次調査を平成21年度から2ヶ年度にわたり追加し、不在村者も含めて悉皆調査に近づける。 <p>取組①-3. 木質チップ生産・供給実証実験(H21～24年度)(隠岐島後森林組合、隠岐島木材業製材業協同組合、隠岐の島町、㈱フジイ・ケミカルズ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未利用材の伐出から木質チップ生産、島内外輸送までの体制確立を図るため、木質バイオマス事業化企業調整を行い、島内外事業者と協力して木質チップ生産・供給の実証実験を行うとともに、町有施設での利活用システムの検討を行う。 <p>取組①-4. 木質バイオマス実証研修会(H21～24年度)(隠岐島後森林組合、隠岐島木材業製材業協同組合、隠岐の島町、㈱フジイ・ケミカルズ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未利用材の島内外利活用を促進するため、移動式チップパーによる木質チップ化現場研修やリグノフェノール研修を行う。 <p>[活用を想定する制度:地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額:①-1=200万円/年、①-2=250万円/年、①-3=400万円/年、①-4=200万円/年)]</p> <p>取組①-5. リグノフェノール製造システムの工業化及びセルロース発酵による新エネルギーの創生研究開発(旭有機材工業株式会社(調整中))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木質バイオマス事業(リグニン)に必要な実証プラントの建設及び製造システムの実証を行う。 <p>[活用を希望する制度:林野庁の森林資源活用型ニュービジネス創造対策事業を申請予定]</p>
	<p>取組②里海の漁場の管理と海洋バイオマス利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁場環境再生実証実験と海藻メタン化実証実験(H21年度) ・漁場環境再生実証実験継続、海洋バイオマス利活用実証(メタン、エタノール等)(H22～24年度) 	<p>取組②-1. 海藻メタン化実証研修会(H21年度)(JFLまね西郷支所、㈱海中景観研究所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海藻メタン化の啓発を図るため、漂着海藻の収集や海藻メタン化簡易実験などを伴う実証研修会を行う。 <p>取組②-2. 海藻の消費拡大のための取組(H21年度)(JFLまね西郷支所、㈱海中景観研究所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未利用海藻(産業化に向けての取り組みが始まったアカモク含む)あるいは市場消費海藻の消費拡大のための取り組み。 <p>取組②-3. 里海維持研修会(H21年度)(JFLまね西郷支所、㈱海中景観研究所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・里海、特に海の「畑」を作り維持していくための研修会 <p>[活用を想定する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額:②-1=100万円/年、②-2=100万円/年、②-3=100万円/年)]</p>
	<p>取組③里山・里海資源による体験交流促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田舎ツーリズム(修学旅行)、空家を利用した短期滞在ツアー実施、交通機関と連携したカーボンオフセット旅行社会実験、有償ガイド実証、里山・里海活性化シンポジウム及び地域資源活用シンポジウム、廃校サミット継続(H21年度) ・田舎ツーリズム(修学旅行)継続、カーボンオフセット旅行実証、有償ガイドによるエコツアー実施、里山・里海活性化シンポジウム及び地域資源活用シンポジウム継続、ものづくり学校整備(H22～24年度) 	<p>取組③-1. 1社1村運動及び短期滞在ツアー(H21～24年度)(隠岐の島町、隠岐NPOセンター準備会、隠岐自然倶楽部、地域戦略研究所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1社1村運動において島外企業の囲い込み及び新規参加企業の獲得を図るため、島外企業PRを引き続き実施する。 <p>取組③-2. カarbonオフセットツアー社会実験(H21年度)(隠岐NPOセンター準備会、隠岐自然倶楽部、地域戦略研究所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林間伐や植林等の体験交流により来島による二酸化炭素排出量をオフセットするツアーの社会実験については、H20年度は10月の開催だったことから、H21年度は島の観光シーズン(4月～9月)に実施し、リピーターの囲い込みや新規参加者の獲得を進める。 <p>取組③-3. ガイド養成(H21年度)(隠岐自然倶楽部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民には当たり前の自然、歴史文化、地質等に価値を見出し、その価値を住民に啓発し、これらの地域資源を活用した観光を目指し、H20年度に養成したガイドについて、H21年度はモデルルートの設置による実践講座を開催し、将来は全島民のもてなしによる観光を目指す。その取組の中で、地質資源を活用したジオパーク啓発も図る。 <p>取組③-4. 里山・里海活性化シンポジウム(H21～24年度)(隠岐支庁、隠岐の島町、地域戦略研究所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島内での里山・里海保全やバイオマスに関係する専門家や企業等を招聘してシンポジウムにより情報発信することにより、取組①や②に対する理解度と参画をさらに深める。 <p>取組③-5. 遊休施設利活用実証実験(H21年度)(隠岐の島町)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊休施設を利活用したものづくりの研修を実施する。 <p>[活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額:③-1=100万円/年、取組③-2=100万円/年、取組③-3=320万円/年、取組③-4=150万円/年、取組③-5=100万円/年)]</p>
	<p>取組④”こだわり特産品”販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者と交流する消費者現地ツアー社会実験(H21年度) ・生産者と交流する消費者現地ツアー実証(H22～24年度) 	<p>取組④-1. ”漁師マップ”の利活用(H21年度)(隠岐NPOセンター準備会、地域戦略研究所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H20年度に作成した”漁師マップ”については、H21年度は水産特産品の生産現場と生産者の実態調査を充実するとともに、マップの来訪者へのPRによる観光への利用を図り、体験交流ツアー等の参加者の向上を図る。 <p>取組④-2. ”こだわり特産品”(里海資源)の創出活動(H21年度)(隠岐NPOセンター準備会、福椿の里隠岐椿花宮会・水産グループ、地域戦略研究所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隠岐の豊富な産物の中で、H20年度は椿油の利活用を図ったが、その他の産物については未だに利活用は充分でなく、特産品の種類の増加が必要であることから、H21年度は里海資源による水産加工品(アラメ、マイカの白ハンペン、白イカの干物、その他)を、地元漁家と連携して創出し、イベント等での販売、モニタリングを実施する。 ・漁師体験、加工体験等による漁家との体験交流や田舎料理・漁師料理の提供等による体験交流ツアーを実施する。 <p>取組④-3. ”こだわり特産品”WEBサイトの利活用(H21年度)(隠岐NPOセンター準備会、地域戦略研究所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・”こだわり特産品”WEBサイトについては、H21年度はその内容を充実し、特産品情報の発信に加えて、特産品加工体験等の観光情報の発信機能を付加し、観光利用を図る。 <p>[活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額:④-1=150万円/年、④-2=200万円/年、④-3=100万円/年)]</p>

隠岐の里山・里海再生を核とした環境産業及び定住・交流促進プロジェクト (島根県隠岐の島町) — 緑のコンビナート実行委員会 —

平成20年度 地方の元気再生事業
事業実施調書 参考資料

◆主な実施取組の内容◆

取組①: 里山再生のための林業体制整備と林業促進のための木質バイオマス利活用
実施主体: 主担当＝隠岐島後森林組合(副担当: 島根県隠岐支庁、隠岐の島町、地域戦略研究所)



◆低コスト化施業研修

低コスト作業システムの計画手法、低コスト路網開設の施工手法を、約50名の林業者が習得し、今後の施業の効率化が十分に期待できる。

◆施業先進地調査

高密度路網、強間伐、高性能林業機械施業等を調査し、間伐の効率化のポイント、木材業と製材業の連携による効率的な流通経路の確保と山主還元的重要性について習得し、今後の森林管理と林業経営の改善が期待できる。

◆町内体制整備検討会

林内の未利用材の搬出、木質チップ化、及び海上輸送の事業システムを検討し、島外事業者が要望する木質チップ需要量、受入単価に対応可能な結果を得たことから、今後の事業化の可能性を確認できた。

◆木質バイオマス社会実験

バイオマス研究会の支援により隠岐の島町役場本庁、都万支所、五箇支所の3箇所に設置。
(町民アンケートの実施で、まきストーブ等の家庭用木質バイオマス機器の利用意向を調査中。)

取組②: 里海的漁場の管理と海洋バイオマスの利用促進
実施主体: 主担当＝(株)海中景観研究所(副担当: JFLまね西郷支所)



◆沿岸漁場の環境情報図作成

沿岸漁場の状況調査を行い、その分布と種類および生育状況(粗密)、地すべり等による土砂流入箇所、海藻の漂着箇所、磯焼けの進行状況について概況を把握。(作成中)

◆海洋バイオマス利活用研修会

隠岐の島町が今後取り組むべき海藻を使った産業振興について研修を受けた。研修会に参加した隠岐水産高校や隠岐酒造などの企業が、海藻を用いた調味液(醤油のようなもの)や飲料用アルコールの製造に興味を示した。

取組③: 里山・里海資源による体験交流促進
実施主体: 主担当＝隠岐の島町(副担当: 森林組合、自然倶楽部、隠岐NPOセンター準備会、地域戦略研究所)



◆島と企業の縁結び

写真左: 1社1村運動 企業PRの状況
写真右: ツアーで企業に遊休施設を紹介

里山・里海再生への取組、木質・海洋バイオマス事業への参画の可能性の高い8社を対象に企業PRを実施し、2社がツアーに参加する結果を得た。ツアーは、里山・里海資源、廃校空家の紹介を実施した。意識調査の結果、2社と「隠岐の島町の1社1村運動」に「関心がある」と回答しており、今後の1社1村運動の推進と、島外企業との連携による未利用資源遊休施設の利活用の可能性を確認できた。

◆カーボンオフセットツアー(里山乗校)

写真左: 島根大学講座での森林間伐体験
写真右: 島根大学生有志による植林体験

島根大学2回生24名と教員4名を対象に、地元ガイドによるエコツアーと専門家による森林間伐体験を実施し、満足度調査の結果、参加者の96%の満足獲得となった。また、島根大学生有志3名を対象に植林活動を実施し、本土から来島時の二酸化炭素排出量(運輸部門)と植林の二酸化炭素固定量をオフセットした。今後の里山体験交流によるカーボンオフセットツアーの可能性を確認できた。

◆有償ガイドの育成と地域資源活用シンポジウム

写真左: 有償ガイドの育成研修会の状況
写真右: 地域資源活用シンポジウムの状況

研修会は延べ150名の受講者があり、隠岐の自然環境および歴史についての講座の開催によって新たに4名が有償ガイドへ意欲を見せている。また、隠岐ならではの地域資源を活用し、ユネスコが支援を行う『世界ジオパーク』への登録を目指した地域資源活用シンポジウムを開催した。シンポジウムには約120名の参加者があり、産官学による活動推進に向けた意見が交わされた。

取組④: “こだわり特産品”の販売促進
実施主体: 主担当＝森林組合(副担当: JF、隠岐NPOセンター準備会、(株)海中景観研究所、地域戦略研究所)



◆“漁師マップ”の作成

生産者と消費者が交流する消費者現地ツアーを目指し、水産特産品の生産現場と生産者の情報を発信。
(現在、他地区の調査を実施中)

◆特産品のモニタリング

醤油について、35名へのモニタリングの結果、見た目=91%、香り=40%、肌触り=83%の満足獲得となった。商品化に向けて十分な結果を得た。

◆隠岐のこだわり特産品

(<http://okikodawari.web.fc2.com/>)
特産品の販売促進を目指したWEBサイトの構築。
(現在、サイトの更新とアクセス解析実施中)

◆取組実施による成果・今後の展開◆

平成20年度の取組成果を受けて、平成21年度以降も**隠岐の里山・里海をフィールドとした「緑のコンビナート」の構築**に向けた本格展開を行う。里山では、木材生産団地化を進めるとともに、森林施業プランの作成に取組み、高性能林業機械の導入による効率化により林業振興を図る。また、これに伴い発生する未利用材等は木質バイオマス事業(リグニン、木質チップ化)による利活用で里山再生を図る。里海については、漁場環境再生実証実験として、アカモク等の海藻増殖等による藻場環境向上実験、既設漁場の機能改善・向上実験、土砂流入影響に関する研究に取組む。また、海藻の加工品開発やメタン化に取組み、未利用資源の有効活用と里海再生を図る。隠岐特有の里山・里海資源を活用した特産加工品開発については漁業者との連携により取り組むとともに、“こだわり特産品”を介して生産者との交流を図る体験交流ツアーの実施により、特産品の販売促進に取り組む。里山・里海環境を享受した体験交流については、空家や民泊等を利用した短期滞在ツアーやカーボンオフセットツアーに取組む。また、体験交流の受け入れ体制を整備するとともに、有償ガイドによるエコツアーに取組み、雇用の創出と観光振興を図る。これらの里山・里海再生による環境産業及び定住・交流促進に対する啓発や情報発信のためにシンポジウムに取組む。また、遊休施設利用を検討するとともに、ものづくり学校の整備に向けた取り組みに展開する。このような取組みを平成21年度以降も継続することにより、隠岐の島町の地方再生の目標(将来像)である産業振興と定住・交流促進による地域経済活性化を目指す。